

小規模特認校説明会 事前質問への回答

	質問	回答
1	成績評価・通知表について	通知表や評価については原則、市内の他の学校と同様です。
2	授業内容、教科、時間数について	学習内容については、学習指導要領に沿って授業が行われていますので他の学校と同様ですが、小規模特認校では1学級当たりの児童数の上限が17名と少ないため、自分のペースで学ぶ時間や異学年合同での学習、自分の興味・関心に基づく探究学習等が行えるという特色があります。 児童が立てた計画に合わせて学習を進め、他者と比べるのではなく、自己評価を大切にし、自己の成長を感じながら学べるようにしています。 また、日課の特色として、異学年で活動する機会を多く設けたり、学びたいことをじっくり思い切り学べるように5時間目を長めに設定したりしています。
3	特別支援学級について	知的学級、自情学級ともに継続されます。各学校において知的学級、自情学級ともに原則1学級のための設置を上限とし、それ以上の学区外からの受け入れは行いません。 なお、現在の在籍校における懸念点や問題点の解決を目的として転校を希望する場合、つくば市指定学校変更(学区外就学)基準上、「小規模特認校に関する理由」には該当しません。まずは、在籍校や特別支援教育推進室等へご相談ください。 また就学については、自律的な学び、体験・探究的な学び、様々な人との交流などを特色としていることを十分理解していただき、児童の特性にあった学校であるかを、ご家庭内や就学中の学校等とご相談いただきながら検討をお願いします。
4	教員以外の職員体制について	市費非常勤講師や、ハートフルSルーム支援員・補助員、特別支援教育支援員、学校司書等のスタッフを、他の学校と同様に配置しています。

5	学校見学・体験入学について	個別の見学や体験入学については基本的には実施しておりませんが、9月と11月に学校見学会を開催し、お子さまにも学校の雰囲気や授業の様子などを見学いただく機会を設けておりますので、是非ご参加ください。申請方法については説明会及び市ホームページ等でお知らせします。
6	保護者の協力について	保護者活動・地域活動の例として、他の学校と同様に、学校と地域が連携・協力して行う校外学習や、学校行事などの際の見守り・支援等があります。小規模特認校であることで、特別な活動をお願いすることはありませんが、児童数が少ない学校となりますので、是非様々な活動へ御協力いただくようお願いします。
7	現在の在籍校との情報共有について	円滑に新しい学校生活を始めることができるよう、通常の転校と同様に、児童の学習状況や学校での様子などについて引継ぎを行います。
8	児童クラブについて	栗原小学校、谷田部南小学校ともに、公設の児童クラブを設置しています。
9	中学校へ進学する際の不安について	小規模特認校では、異学年での学習や多様な他者との交流の機会があること、児童全員での学校づくりなどの経験を経ることで、リーダーシップや思いやり、他者との協働力などを育んでいきます。それにより、中学校生活へも自信を持って前向きにチャレンジできる児童になっていくと考えています。 また、学園内の小中学校との交流の機会を設けています。そのような取組も中学校進学への不安軽減につながると考えています。

10	就学申請について	市内全域から就学を認める学校という性質から、定員を超える申請があった場合、既に兄弟姉妹が在籍している場合を除き、学区外からの就学についてはすべて同じ基準による抽選となります。 現在市外にお住まいで年度内に転入予定の方の手続きについても、市内にお住まいの方と同じように受付し、定員を超える場合は市内の方と同じ基準で抽選となります。なお、受付時には転入済みである必要はありませんが、入学までには転入いただく必要があります。 11月頃から申請受付開始の予定ですが、実際の手続き時期や方法等については、現在見直しを行っており、改めてお知らせします。 小規模特認校の学区内からの就学は、抽選なく就学できます。栗原小学区からさくら小学区に変更となった地域については、ほかの学区外と同様に抽選対象となりますので御留意ください。
11	栗原小学校、谷田部南小学校の違いについて	現在、栗原小学校は全校児童数39人で、うち学区外から就学している児童は32人です。谷田部南小学校は全校児童数71人で、うち学区外から就学している児童は22人です。 どちらの学校もイエナプランの理念を参考に、自律的な学び、体験・探究的な学び、様々な人との交流などを特色とした教育を実践していますが、在籍する児童どうしや地域とのつながりの中で、それぞれの教育活動が今後進展していくと考えています。
12	通学方法について	学区外からの通学については、登校班がないため原則保護者の送迎としています。その他、保護者の責任において公共交通機関を利用した通学を認めています。

13	小規模特認校の実績、成果、課題について	小規模特認校は今年度から導入した取組のため、現状で明確な実績・成果や課題が見えているものではありませんが、これまでも小規模を生かした教育を進めてきた谷田部南小学校においては、生活・学習態度について、アンケート等の調査結果から、児童の主体性や協調性、やり抜く力等の非認知能力が高い傾向が見られます。また、児童が様々な活動に主体的に関わることで、みんなで学校をつくり上げているという充実感を味わっていることが伺えます。また、同調査結果からは、他校と比べ大きな課題と捉えられるものではありませんでした。 対外的には、小規模特認校の取組についての周知が課題と考えています。今後も様々な機会に、小規模特認校が、小規模であることの利点を生かし、よりきめ細かな支援をしながら、目標を持った生活、問いと向き合う体験・探究などを通して、自律的な学習者を育てることに一層力を注ぐ学校であり、不登校児童への対応を目的とする学びの多様な学校や、特別支援教育の一層の充実を目的とした学校であるといった誤解が生じないように、教育活動の充実とその教育活動の発信に努めていきます。
----	---------------------	--